

空き家を学習教室やたこ焼き屋として活用していると、「この空き家も使ってくれへんか」という声をいただくように。空き家を維持管理するだけでなく、地域が賑わい、ビジネスにも結び付くような活用方法を所有者とともに考えます。こうした地域活性化に向けた取組を積み重ね、子どもたちにとって、将来の可能性を見出せる地域を築いていきたいですね。

でも、地域の中で「あいつら勝手なことやっ

て」となれば、円滑に事が進まなくなってしまいます。地域一丸となって私たちの活動を応援いただいているからこそ、いろんな事業にチャレンジできる。また、若者同士の横の連携があることも大きな力となっています。

他地域の人に「若者の参画を進めるには？」と聞かれますが、平日昼間に会議が行われていたりすることも…。従来の慣習を一つひとつ見直ししていく必要があるのではないのでしょうか。

地域の支えがあると、
いろんなアイデアが
形になっていく！



(一社) 滝川 YORIAI
重森 洋志 さん



若者たちが参画する 多世代で担うまちづくり

赤目まちづくり委員会の運営イメージ(令和4年度)



PTA・学校・地域がスムーズに連携

PTA会長、小学校長、区長などが「青少年育成部会」を構成しているので、何をしても調整がしやすい！顔の見える関係だから「無理のない程度で」と気軽に助け合えるのもいいところですね。赤目地域では独自に、PTA役員経験者による「PTA運営評議会」を5年前に設立し、現役員とともに活動しているので、地域との連携もうまく引き継いでいけるし、若者同士の新たなつながりも生まれていますよ。



元小学校 PTA 会長
富森 康宏 さん

「みんなで助かるまちづくり」を

子どもやお年寄り、車いすの人など、それぞれの視点で防災を考えておくことが大切です。地域ぐるみの防災訓練は重要な機会なので、消防団もしっかりサポートします。また、地域の催しに消防団が参加したり、消防団OBに支援いただいたりと、地域のつながりを大切にしながら、災害時に迅速な対応ができる体制を築いています。今後も、自助と共助で「みんなで助かるまちづくり」を進めていきます。



消防団 赤目分団
濱地 俊宏 さん



赤目まちづくり委員会
会長 藤村 純子 さん

若者の声にしっかりと
耳を傾け、挑戦できる
雰囲気をつくらないと

まちづくりの担い手不足はじわじわとやってきます。高齢者などの生活支援組織「あんしんねっと赤目」でも、利用者が増える一方、ボランティア会員数は横ばいのままです。そうした中、赤目まちづくり委員会前会長の「若者や女性が積極的にまちづくりに参画できる体制づくり」といった考えを引き継ぎました。

コロナで中止になりましたが、夏祭りの運営を若い人たちに任せると、高校生がポスターを作ったり、子どもが盆踊りに参加できる

ようにしたりと新しい試みも企画されました。「今まではこうだったから」と頭ごなしに否定せずに、シニアの側から、しっかりと聞く耳を持つことが大切。若い人たちのチャレンジを温かい目で見守っていきたくですね。

もちろん、従来の事業を180度変えてしまおうとしているわけではありません。いろんな世代の人の発想を生かして、失敗も繰り返しながら、少しでもいい方向にまちづくりを継続していければと思うのです。



「地域の役に立てば」と空き家で学習教室を開いた大学生と空き家を借り上げた(一社)「滝川 YORIAI」の皆さん



大学生が地域の課題や魅力を探る「YORIAIプロジェクト」。現地案内や聞き取りなどに地域の皆さんが全面協力。大学生は空き家の多さに驚き、その活用を提案した

特集 まちの賑わい、明日へつなぐ。▶ 地域活性化に若者の力を

若者と地域をつなぐ

「何をしても若い人を巻き込んでいこう」と、若者(主に子育て世代)の活動を支援している赤目地域。空き家や耕作放棄地の活用など地域の課題解決に向けて、若者の力が発揮されています。

「何をしても若い人を巻き込んでいこう」と、若者(主に子育て世代)の活動を支援している赤目地域。空き家や耕作放棄地の活用など地域の課題解決に向けて、若者の力が発揮されています。

「何をしても若い人を巻き込んでいこう」と、若者(主に子育て世代)の活動を支援している赤目地域。空き家や耕作放棄地の活用など地域の課題解決に向けて、若者の力が発揮されています。

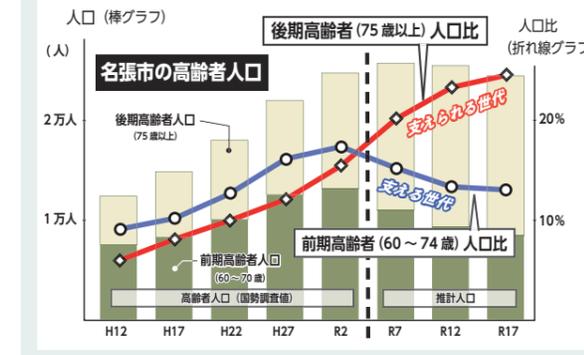


「子どもたちの居場所になれば」と、小学校近くの空き家をたこ焼き屋として活用



地域で広場を整備。若者たちもイベントなどに積極的に活用し、地域を盛り上げていく

地域課題と市の取組 ② 「担い手不足」



高齢化が進む名張市では、これまで主に地域の活動を担ってきた60~70歳前後の「支える世代」が減少。75歳以上の「支えられる世代」が増えていき、地域の事業や役員選考のあり方など、従来通りではうまくいかない地域が出てくることも考えられます。

市では、地域間の情報共有を図ったり、市の現状や先進事例などを知ってもらうシンポジウムや研修などを開催したりしています。



シンポジウム資料など

問 地域経営室 ☎ 63-7484



地域経営室 室長
中木屋 恵理子